



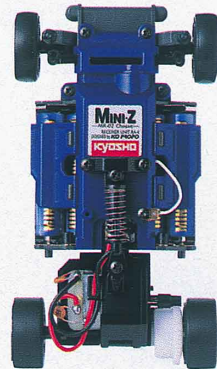
フロントマスクの精悍な表情を巧く再現。フロントカウルからルーフまで一体成型されているのは実車と同じ。



リアウィングはカーボン調プリントがレーシーな雰囲気を盛り上げる。特徴的な4本出しマフラーも精密に再現。



実車のマクラーレンF1は、627馬力を誇るBMW製6ℓ V12エンジンを積むモンスター。新車時価格は約1億円也。



MR-02 (MM) シャシーは、実車のスーパーカーと同じように動力源をミッドシップマウント。低重心が特徴的だ。

約1/28スケールで緻密に再現されたミニッツは、飽きさせること知らない。オブジェとしてリビングルームや書斎に飾ってあっても、違和感が全くない。それほど美しさを知らない人が見れば、その美しい姿を見てR/Cカーであるとは予想だにしない。ラインナップには身近なファミリーカーもあれば、名の知れた高級車もある。F1やGT選手権のレーシングマシンもあれば、いつの時代でも憧れの存在としての地位を保ちつつもいるスーパースポーツカーだってある。眺めているだけでも時間が経つことを忘れそうなのに、乾電池を用意すればミニッツはR/Cカーへと様変わりする。ピストルのようなグリップをもつ送信機を握り、人差し指でスロットルをコントロールする。手前に引けば前進し、逆に押しれば後進する。後進はブレーキとしての役割も担う。操舵はスロットル上部につけられたステアリングで行う。ミニッツを右へ

大人のR/Cカー講座 vol.3 究極のスポーツ マクラーレンF1を操る。

text: Takashi Koga/Jun e Co.
photographs: Takashi Shimizu



ボディカラーはババイヤオレンジのほかにシルバーも用意されている。余談だが、F1チーム「マクラーレン・メルセデス」の代表、ロビン・デニス氏もミニッツを見て絶賛したという。価格1万6590円。

曲げたい時はステアリングを奥へ回し、左に曲げたい時は手前に回す。初心者にはこれが厄介で、慣れが必要だが時間が必ず解決してくれる。

感心させられるのは、ミニッツの動きだ。高性能なデジタルプロポーションナルシステムを搭載し、微妙なスロットルやステアリングの操作にも素直に反応する。自分の操作とミニッツの動きにズレはない。実車の運転さながら、アンダーステア、オーバーステアを体感することもできる。コーナー手前でスピードを緩めることで、フロントホイールに荷重を移動してグリップを高める、という芸当だってこなせる。開発陣の意図は、ミニッツでも妥協ない走りを実現することだったという。手間隙惜しまず開発されたミニッツはエクステリアの美しさだけでなく、R/Cカーとしてのポテンシャルも相当高い。ミニッツ・オーナーは飽きることがない。